

ほのぼの

第18号

平成20年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会



ご本山 総御堂に響く仏教讃歌

千の風に、千の風になって……。
最近、信行寺の本堂では、素晴らしい歌声が、聞こえてきます。この曲の言葉とメロデーが、すーっと私達の心の中に、入ってまいります。

先日、新井満さんによる、朗読と歌を聴き、改めて、曲のすばらしさに感動しました。これからも、機会がある毎に歌いたい曲です。

信行寺コーラスみやび会の活動は、月一度の練習ですが、主に、法要に向けての曲を、歌っています。三年前からは、毎年秋に、西本願寺で行なわれる御堂演奏会に、参加しています。全国から集まった人々と一緒に、緊張感を持ちながらも、歌える幸せを感じております。

音楽は、聴く事で、リラックス効果があるそうです。気軽ににお寺にお越しいただき、一緒に歌ってみませんか。そして、歌う喜びを味わって下さい。

コーラスみやび会講師 森本順子

「出会いを想う」

住職

二十年ほど前になるかと思えます。Oさんが息子さんご夫婦とお寺にたずねてこられたのは。大分県のご出身でした。お聞きしますと、神戸で檀家になるお寺を探している。それで、ここにくるまでに、十五軒ほどお寺をたずねました。なぜそうしたかといえますと、檀家になることは、これからすえ永くお付き合いをすることです。だから、「自分が安心して生涯おつきあいのできるお寺かどうか」が重要だったからですといわれました。

しばらくわたしと坊守と話をされた後、「このお寺に決めます」といって信行寺の檀家さんになりました。

また、平成七年の大震災でお寺が全焼した後のことです。「あなたのお寺は地震で焼けたのだから、きっとお寺を再建するとき寄付を頼まれるにちがいないから、今のうちに檀家をかかわったほうがいいよ」とOさんに言われた人がいたそうです。

それを聞いたOさん、「こういうときにこそ、お寺に協力するのが檀家というものです」と反論されたそうです。このようにしてお寺を支えてくださったOさん。

九十七歳でこのたび往生されました。

台掌

『信行寺さんと私』

久納 恵弘

信行寺（以後お寺と記す）さんとの関係はさだかではないが数十年前、両親が現在の仏壇を購入してからではないかと思われる。不信心な私でしたが私がお寺に聴聞にお伺いするようになったのは平成二年三月十二日、父が行年九十六才で亡くなり、お寺で葬儀を行って頂いた以降ではなかったかと記憶している。（平成五年五月二十一日、母も行年八十八才で亡くなりお寺で葬儀を行って頂きました）

その後、平成七年一月の阪神淡路大震災で太田町三丁目にあつた実家が全壊し、仏壇も下敷きになり破損しましたが修理後、わが家に引き取り朝夕おまいりしている次第です。

又、一昨年の研修旅行『山陰の妙好人を訪ねて』に初めて参加させて頂いたのと（昨年は所要の為不参加）、昨年及び一昨年の本願寺、念仏奉仕団に参加させて頂きました。

今後とも聴聞にお伺いし精進したいと思っております。

台掌



修復が完成した御影堂の大屋根 (百華園側から写す)

本山念仏奉仕団に参加して

赤坂 亥才男

二十四回目の信行寺念仏奉仕団が、十一月八日と九日に実施され、十九名が上山しました。

ご本山では、長年、御影堂全体を覆っていた素屋根が、取り払われ、久しぶりに全容を表し、拝観することが出来ました。

中でも創建当時から風雪に耐えてきた瓦が今回の修復でも一部使われています。写真は裏側からで、中央の一番白いのが三六〇年前、次が二〇〇年前、両側が平成の瓦で、はつきりと、年代的に判別することが出来ます。

御門主様との記念撮影後の御面接で「全国の皆様のお蔭でこの様に立派な平成の大修理が出来ました」と大屋根を望まれ乍ら感慨深気なお言葉がございました。

今年は十一月七日(金)から八日(土)に参加します。二十五回目の節目の年です。一人でも多く、上山し、ご奉仕させていただきましょう。

信心は一つ

信行寺 住職

親鸞聖人伝絵の七段は「信心諍論」（しんじんじょうろん）の段です。法然上人門下の僧侶が集まったところで、親鸞聖人が「法然上人の信心も、私の信心も同じ」と申したことから起こった論争のことが書かれております。

「あなたの信心と、上人の信心が等しいとはなにごとか」と、皆が騒いだのです。「私の信心も、上人の信心も共に仏より給わった信心であるから同じだと申したので、知識や修行のキャリアが等しいといえば、身のほど知らずといわれてもしかたがないが、他力の信心においては、その因となるも



のは一つである」という意味のことをいわれたのです。人の日常は、事々に「私」というものが出て参ります。私の物とか、私の信心といったように、私が何とかしようとしたものがあるわけです。信心において「私の」といった場合、いろんな信心が起こってきます。因が一つ

であれば、果も一つですが、因がそれぞれ違ってくるので、果もそれぞれ違ったものになります。法然上人もそのことを咎められて、「他力の信心は皆一つです。仏より給わった信心です。違った信心の者は、私たちの往く浄土によもや生まれることはない」と言われたのです。ここでは他力の信心と、自力の信心との違いを明確に示されております。人は自分の思い込みを力にして、あてにならないものをあてにする、これを自力のはからいといえます。たとえ浄土に生まれたとしても、五百年の間、華の開かない状態で辺地に生まれるといわれております。

（報恩講では、親鸞聖人伝絵が掲げられ、各段の絵解きがされます。今回は第七段の「信心諍論」の場面（上図）でした。文章は住職のお話を要約したものです）

「平成十九年を振り返って」

昨年度最終の法要となる報恩講終了後、世話係一同による懇親会を兼ねた反省会が開かれました。

住職は挨拶でお世話をして下さっている方々に支えられてお寺の行事が継続できていることを感謝していると話されました。また、孫の空城ちゃんと光輪ちゃんには、先ず形から入ると云う意味で袈裟を着用させているとお話がありました。

昨年度私として特に感じたことは、定例法座での副住職の法話は現住職とは別の意味でのよさがあり、御自分の子供達との日常生活の中から気付いた事柄を釈尊の過去から現代に繋^{つな}げてさり気ない口調で表現なさり、若い世代には勿論年配者にも共感を呼ぶお話しぶりで楽しく聴聞させていただきました。最後にひと言、袈裟がだんだんと身に付いてこられてお勤めの後に「ようこそお詣り下さいました」と挨拶なさるお声が一段と確かなものになってこられた空城、光輪さんのお二人を楽しみに今年も聴聞を続けさせて頂ければ幸いです。

長井輝子

明日ありと思ふこころのあだ桜

親鸞聖人が出家されたと伝えられている青蓮院。その境内に聖人の童形像が建っています。出家得度されたばかりの聖人が合掌されている像で、その台座にこの歌が彫られています。(像と歌碑は日野誕生院にもあります)

明日ありと思ふこころのあだ桜

夜半に嵐の吹かぬものは

伝えるところによれば、聖人九歳の春、僧侶になるために伯父の日野範綱郷に伴われて青蓮院に來られたとき、慈円僧正が「今日はもう日も暮れるから、得度の式は明日にしよう」といわれたところ、聖人はこの古歌を示された、といわれています。咲き続けるだろうと思っていた満開の桜も、突然の嵐にはかなく散ってしまうように、明日の日もあてにならぬ人生無常のことわりを訴えている歌です。

聖人の深い決意に感動された僧正は、その夜、得度の式を行なわれたと、伝えられています。

「本願寺聖人親鸞伝絵」の「出家学道」の段には、「門前の満開の桜」と「燭台の灯の中での剃髪」が描かれています。

この歌は江戸時代末期に出版された「親鸞聖人絵詞伝」に出ている、と教えていただきました。

「仏教名言ノート」より抜粋

新春初法座

平成二十年一月五日

正月は正（ただ）す月ともいいます。私たちは人生をこのように生きていこうという目標をもって生きております。目標を遠くにもつておりますと、真つ直ぐに通つて見えますが、足もととは真つ直ぐに歩いていくかどうか分かりません。違った方向を向いていけば、正しい方に修正しなければなりません。除夜の鐘を聞きながら、一年を振り返り、正しい道を歩んできたかを、夜を徹して反省するのです。そばを食べて寝るのではないのです。明けて元旦は、また新しく生まれ変わつて、目標を目指して生きていくのです。

京都清水寺の貫主が、年末に一年を振り返つてその年の感慨を一字の文字に表して書いておりますが、昨年は「偽」という字でした。賞味期限を改ざんする、豚肉を牛肉と偽つて売るなど、消費者を騙す事件が多かつたです。偽という字は、人べんに為すと書きます。人のすることとは偽（にせ）だということです。見た目には本当のように見えて、本当は偽物だったということが世間にはよくあります。何が真実で何が嘘であるかを見分ける智慧を、南無阿弥陀仏に問うていくのです。

歳をとると、頭の働きも体の動きも鈍くなり病気にでもなると死ぬのではないかと孤独になります。人生にしつかりした目標をもつておりますと、日々新たな発見と感動があるのです。九条武子という歌人が次のような歌を詠んでおります。

見ずや君あすは散りなむ花だにも

力のかぎり ひと時を咲く

明日散つていく花でさへ、今ひと時を精いっぱい生きておるのです。

信行寺 住職

今年もよろしくお願ひします



よねだ 米田 (9歳)
よねだ 米田 (6歳)

おきな児の無心に称う正信偈

南無阿弥陀仏の声すずやかに

(写真・歌 森本)

阪神大震災物故者の追悼法要



一月十二日(土)午後二時から定例法座の日に信行寺において淡路・阪神大震災物故者の追悼法要がありました。

平成七年一月十七日に震災があり、早や十三年の歳月が過ぎました。この震災で六千四百余名の尊い命が失われてしまいました。信行寺の門信徒の方の中にも、二十八名の方々が犠牲となり、ほんとうに残念なことです。震災後十周年までは、毎年一月十七日午前五時四六分に門信徒とともに追悼法要がとり行われてきました。その後もお寺では例年の日時でおつとめされていますが、門信徒参加の法要は一月の法座のときに行われています。私達は物故者の思いをしのびつつ正信偈さんのおつとめをさせていただきました。

住職からは、震災のことを忘れず、いつ地震が来ても適切に対処できる準備が大切だと話されました。

副住職からは、私達の生活の中で、電気・ガス・水道など、使うのは「あたりまえ」で、「お蔭で」という気持ちしが失われており、災害にあつてはじめてこれらの大切さが分かりますと話されました。私達は、生かされていることに感謝の気持ちを忘れず、お念仏させてもらいました。

月田 幹雄

信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

○三月十五日(土) 午後二時より

法話 住職

○三月十六日(日) 午後二時より

法話 藤実無極先生

第七回 門信徒会総会

四月二十六日(土)

午後二時より四時

(おつとめ・総会・法話)

門信徒会員の皆さま

年に一度のことです。できるだけ
おこし下さい。

なお、20年度会費(千二百円)

ご入金下さるようお願いいたします

花まつり

四月十三日(日)

午後一時～

おつとめ・おはなし

人形げき

(神戸女子大学の

学生さんによる)

午後二時～三時

法話 住職

◎旧跡参拝旅行

今年は六月九日(月)

から十日(火)まで

広島方面に行きます。

今年は神戸女子大の学生による
人形げきがあります

編集後記

年三回の発行の寺報を皆様如何愛読して頂いているでしょうか。係も努力していますが、何なりとご意見ご希望をお寄せ下さい。

ご投稿頂くことによりお寺との御縁も一層深くなると
思いますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(長井記)

